

令和8年度
(2026年度)

市駅周辺まち活性化部の取り組み

<部長の方針・考え方>

枚方市駅周辺では、北側及び東側（③街区）における市街地再開発事業において、令和6年にオープンしたステーションヒル枚方などに続き、本年2月に、本再開発事業の最後の工事である北口駅前広場の再整備が完成し、市駅周辺再整備事業のリーディングプロジェクトが完了しました。引き続き、再開発組合の解散手続きなどに対して支援を行います。

市駅の南側においては、④街区及び⑤街区の再整備に向け、市議会の意見を踏まえた複数の庁舎位置の詳細比較を行うとともに、ニッパーク岡東中央を生かした市有地の有効活用の検討を進め、多くの人が訪れ、交流と賑わいが創出される再整備の実現につなげます。②街区については、本年3月に発足された地権者主体の「枚方市駅前南地区市街地再開発準備組合」への技術的な支援を行うとともに、駅前広場の再整備や④街区と連携したみどりの大空間の形成などに取り組みます。こうした検討を進めるにあたっては、市民や市議会のご意見に対し、丁寧な対応に努め、市駅南側の一体的なまちづくりの具体化に取り組みしていきます。

また、重要な地域資源である天野川の更なる活用に向けては、国の制度である「かわまちづくり支援制度」の活用も見据え、引き続き、地元自治会や地域団体、事業者に参加いただいている「天野川の活用に向けたワークショップ」などからご意見をいただきながら、ウォーカブルなまちづくりにつながるよう、大阪府などの関係者と連携して検討を進めていきます。

- ①地域資源を生かした魅力あふれる拠点づくりの推進
- ②枚方市駅周辺再整備に向けた機運の醸成
- ③国・府をはじめ事業者など様々な関係者との連携、協力
- ④市民や議会への丁寧な情報共有

<部の構成>

市駅周辺まち活性化部

<主な担当事務>

- (1) 枚方市駅周辺の再整備に係る企画、立案、調整及び実施に関すること
- (2) 枚方市駅周辺の再整備に係るエリアマネジメントに関すること

重点的な取り組み：枚方市駅周辺再整備の推進

【施策シート：18-01、18-02】

本市の新たなランドマークとなった「ステーションヒル枚方」など、③街区の再整備により生まれた効果をさらに広げていくために、続く街区の再整備に向けて、市民や市議会のご意見を十分に踏まえながら検討を進めていきます。

④街区及び⑤街区のまちづくりでは、市議会の意見を踏まえた複数の庁舎配置の案について、より詳細な調査をもとに合理的・客観的な比較検討を行い、庁舎位置の確定に取り組みます。また、UR都市機構等と連携しながら、まちの魅力を高めるため、みどりの大空間や導入する都市機能、新たな道路の検討も含め、交流や賑わいのあるまちの具体化に取り組みます。検討にあたっては、民間事業者ヒアリングなどにより、④街区の市有地について、定期借地制度の活用を含めて、多様な土地利用の可能性調査を進めます。

②街区のまちづくりでは、枚方市駅前にふさわしい風格と魅力が感じられる景観や、④街区と繋がるみどりの大空間の形成、駅前の交通混雑の解消、安全で快適な歩行空間の確保などに向け、地権者主体の準備組合への技術的支援などを行いながら、南口駅前広場を含めた再整備の調査等に取り組みます。

①街区においては、引き続き地権者と意見交換を行うなど、まちづくりの機運醸成を図ります。



<街区図>

※令和7年9月全員協議会資料ベース

重点的な取り組み：新庁舎整備に向けた検討

【施策シート：18—01】

新庁舎については、災害時において、高度な防災拠点機能を発揮するほか、対面とオンラインのそれぞれの強みを活かした利用しやすい窓口機能を有するなど、安全・安心と利便性を実感できる施設としていきます。また、市民間の交流が生まれるような開放的な空間や市民ニーズを踏まえた付帯施設などの導入、環境への配慮など、市民が親しみを持てる庁舎をめざします。さらに、将来の社会環境や市民ニーズの変化にも柔軟に対応できる施設を検討していきます。

これまで実施した市民アンケートのほか、障害者、高齢者、子育て世帯などの方々に対する個別意見聴取や、高校生ワークショップ、並びに先進事例の調査などを踏まえ、引き続き、ワーキングチームをはじめ庁内横断的に庁舎機能の具体的な検討を進め、有識者などからのご意見を伺いながら、新庁舎整備基本計画の策定に向けて取り組みます。

重点的な取り組み：市駅周辺再整備にあわせた天野川の活用の推進

【施策シート：19—02】

天野川は、桜まつりや七夕まつりなどのイベントに加え、ボランティアによる清掃活動を毎年実施いただくなど、地域の方々が愛着をもって活用されている重要な地域資源となっています。

枚方市駅周辺に留まらず、宮之阪駅周辺地域も含めた回遊性の向上と賑わいの創出を図るため、天野川のさらなる活用に向けて、ハード・ソフト両面での検討を進めます。検討にあたっては、令和7年度より地元自治会や地域団体、事業者に参加いただいているワークショップにおいて、今後も様々な提案をいただくとともに、「かわまちづくり支援制度」の活用について河川管理者である大阪府と連携しながら調査・検討を進めます。

これらの取組を通じて、地域や事業者などと行政が連携して、持続的にまちの魅力を高めていくエリアマネジメントの実現をめざします。



＜対象範囲図（変更の可能性あり）＞



＜天野川の川辺を活用した賑わいづくりイメージ＞

取り組みの成果を測る指標	令和8年度目標値（累計）	令和7年度実績（参考）
多様な組織・団体によるワークショップの回数	5回	2回
天野川の活用に向けた取組と連携したイベントの実施回数	2回	1回